

令和4年度徳島県立近代美術館協議会会議録

1 日時 令和4年11月16日(水) 13:30~15:30

2 場所 徳島県立近代美術館講座室

3 出席者

〔委員〕10名中10名出席

4 会議次第

- ① 開会
- ② 館長挨拶
- ③ 委員紹介・職員紹介
- ④ 議事
 - (1) 委員長・副委員長の選任について
 - (2) 令和3年度事業実施状況について
 - (3) 令和4年度組織・予算及び事業概要について
 - (4) 中期計画・中期目標について
 - (5) その他
- ⑤ 閉会

5 会議概要

①委員長・副委員長の選任について

委員長に岡山委員を、副委員長に結城委員を選任

②令和3年度事業実施状況並びに令和4年度組織・予算及び事業概要について

事務局から説明

③質疑応答

委員	学校団体の美術館鑑賞の受け入れや、出前授業などの取り組みを通して、初めて美術館に来てみて、そこでこの施設に親しみを持たたという保護者や子どもたちの声をよく聞きました。この取り組みをぜひ継続していただきたいと思います。
委員	前年度に比べ、令和4年度の予算が減額されています。さまざまな苦勞がある中で、所蔵作品をクローズアップしたり、他館の作品を借りたりして工夫して運営されていると感じるが、これについてはどのような経緯なのか、お話できる範囲でいいので伺いたいです。
事務局	これについては、令和3年度の資料収集保存事業費において、アールブリュット作品を購入するということで、クラウドファンディングの事業として

	<p>220万円を計上していたためです。昨年度が特別だったということで、今年はその事業がない分、少なくなっております。</p>
委員	<p>クラウドファンディングで作品を購入することができて、成功を喜ぶ反面、「こういうやり方で購入できるのだから、(予算がなくても) いいじゃないか」という流れになるのではないかと、心配しておりましたので、安心しました。</p>
委員	<p>中期計画に「施設の老朽化」とありますが、それはどういった点でしょうか。というのも当館(徳島市立徳島城博物館)も同じような問題を抱えています。</p> <p>それと、ニュース会員が、令和2年度が33名なのが3年度は13名となっています。これは単純に見ると大幅に減っているのですが、何か理由はありますか。</p> <p>それから、年間の展覧会案内の印刷物について。例年、令和3年度までは、カラフルな色で、カレンダーも記載されていてそれが会期と対応しているという、非常に見やすくかわいらしいデザインだったのですが、それが今年少し様変わりしてカレンダーがなくなっています。これは展覧会の内容自体の宣伝をもっと大きく、という意図は何となく分かるのですが、どういった理由によるものでしょうか。</p>
事務局	<p>施設の老朽化については、まず展示室の壁紙やカーペットの傷み、それから空調のフィルターの老朽化があり、空気の調節を保たなければいけないのでその問題が挙げられます。そして展示室のスポットライトなど照明設備が老朽化して、照明がちらつくとか照度が不安定であるとかそういった問題があります。また、収蔵庫の鍵が老朽化によって開けづらくなっていて、修理を何度かしています。今思い浮かぶだけでもこういったものがあります。</p> <p>ニュース会員については、団体で入ってくれていたところが、続けられないということで退会なさって、その影響です。個人で入ってくれている方はずっと続けてくださっています。</p>
事務局	<p>今年度の年間展覧会案内は、画像を大きく入れ、視覚的に展覧会の作品や内容をクローズアップできるようなデザインを目指しました。</p>
委員	<p>カレンダーがあった方が見やすいとか、それは個人で様々な好みがあると思います。これからもいろいろな方向性を探ってもらえれば。それと、サイズもちょうどよく、身近に置くことで美術館自体が身近なものに感じられる</p>

ということもありますね。

委員

その年間展覧会案内ですが、どの程度印刷してどのようなところに配布しているのでしょうか。というのも、この美術館に来ないとこの配布物に出会えないので、もっと工夫の余地があるかもなと思ひまして。

それから、徳島県は人口に対して高齢者の割合が33パーセント、これは全国で5位となっています。ユニバーサルミュージアムや出前事業など、さまざまな取り組みをされている中で、もっと高齢者の方々が美術館に来ていただけるような取り組みや、以前から提起しておりますように高齢者の施設への出前講座やオンライン授業などの連携が必要かなと思います。

そして、外国人に対する支援という視点もこれから重要になってくると思います。県人口は年々減っていますが、外国人人口は減っていないんですね。現在、県人口の0.94パーセントが外国の方だということです。この視点が重要と感じます。

また、先ほども団体鑑賞の受け入れや出前授業の話が多く出ていましたが、やはり県南、県西の学校は、遠方であることがあってまだまだ美術館と縁遠いところがありますので、それに向けた取り組みも必要かと思ひます。

事務局

美術館の印刷物は、展覧会のポスター、チラシ、年4回発行する「美術館ニュース」そして年間展覧会案内などさまざまあります。それらは県内のコンビニに発送したり、また県内の図書館、博物館、また病院や銀行、花屋さんや理髪協会など、つながりを駆使して色々なところに配布していますが、その印刷物を見る機会がないということになりますと、確かにさらに工夫が必要と感じます。何か配布場所についてご提案がありましたら、お教えください。

高齢者施設との連携に向けた取り組みについては、まずは1件の施設からでも始めて、それをとっかかりにして、少しでも裾野を広げていくのが重要と感じています。

ちょうど今年のユニバーサルミュージアムのテーマが「高齢者」であり、高齢者に限定するというよりは老若問わず、作品をきっかけにしてもっと自分の経験なり物語なりを語っていいんだよという、今「回想法」というのが流行っていますがそういったことを切り口にした企画を準備しています。

遠方とつながるといのは確かに課題でして、前年度のユニバーサル事業でオンラインで遠くとつながるイベントを実施したんですが、スタッフがもう少し必要だとかいろいろな課題が見えてきました。若い学芸員たちの力も

	<p>借りながら、引き続き進めていきたいと思います。</p> <p>県南・県西の学校への取り組みについては、今日ちょうど教育普及担当の職員が半田に出前授業に行っております。この前は池田の小学校の児童が来てくれました。この方面も、粘り強く取り組んでいきたいと思います。</p>
委員	<p>年間案内ですが、二次元コードを付けて、それでページに飛んでカレンダーが見れたりするといいかもしれませんね。いろんな方法があると思いますので、ご検討ください。</p>
委員	<p>まず、中期計画・中期目標と言いながら、KPI や KGI が全くない。ゴールが全く明確でないし、数値化するなどして比較できるものが何もないので、これではどのような経過を辿っているのか判断のしようがないです。例えば、「展示活動」の「特別展」の項目の中に「メリハリのある開催計画」とありますが、何をもってそれを判断するのですか。きちんとゴールを設定し、プロセスを組んで、今がその経過の中のどこに位置するのかといった分析が必要です。</p> <p>また、今日の会議も、このような大量の紙資料は全部、要らないと思います。年報も要りません。PDF にして、会議の時はそれをプロジェクターに映して示せばいいじゃないですか。</p> <p>そして先ほどこの美術館の HP を見たのですが、最初の方のページはスマートフォンに対応していますが、その中に入るとパソコン専用画面になっていて、これでは全く使えません。このページがどのくらいの人口のどの世代の人に見られているかという分析をする必要があります、それに基づいて WEB を変えていく必要があるんですが、その費用をどう捻出するかというと、これらの紙の媒体を削減して、そこから当てていけばいいわけです。</p> <p>また、現在、言葉を言われても頭でイメージできない人が、人口の 4 パーセントいるということが、研究で分かっています。それを「アフアンタジア」というのですが。そのことについて、竹内さんと今後また取り組んでいけたらと思います。</p>
委員	<p>確かに、この紙媒体たちを見ると、費用がかかっているだろうなと感じる内容のものです。どこを削ってどこを充実させていくかが、これから重要ですね。</p>
委員	<p>ユニバーサル事業を始めとして、障害のある人との連携や交流が盛んであるということが今日の報告でよく分かったんですが、学校にも、(作品自体</p>

	<p>の魅力を伝えるだけでなく)美術館のそうした取り組みを教えてもらえると、今後の人権教育などにも役立つなあと感じました。</p>
委員	<p>今年は夏の「戦後彫刻展」で、当館（相生森林美術館）の所蔵作品を紹介していただき、当館で展示するのとは違った環境で見てもらえてよかったと感じました。やはり美術館で「本物」を見ることの大切さを伝えることを大切に、これからも幅広いニーズに応えていってほしいと思います。</p> <p>作品収集の予算については、県立にしては少ない額といえるかも知れませんが、これを維持あるいは増額していく努力をこれからも続けていってほしいです。</p> <p>当館も、コロナ後となったときに、コロナ前の水準に果たして戻れるのか、疑問なところはあります。しかし県の芸術をリードする機関として、近代美術館にはぜひ努力を続けていってほしいと思います。</p>
委員	<p>美術館との接し方について、未就学児や障害のある子をもつ親にとってはまだ敷居が高いようで、美術館が文化の森にあると知っていても、そんなところにうちの子が行っていいのかとか、行って騒いだらどうしようとか、考えてしまうみたいです。なので、美術館がどのような場所なのか、さらに分かりやすく伝える工夫をこれから期待したいです。</p>
委員	<p>どうすればこの美術館に来たことがない人にもっと足を運んでもらえるかということについてですが、例えばこの年間展覧会案内を見たときも、美術館になじみのない人からすればかなり敷居が高いと感じると思います。私は文学の方を教えていまして、美術館や博物館には比較的なじみのある層だと思いますが、その私がそう感じるということは、他の人はさらにその印象が強いと思います。そこで、例えばなんですが、年に一度はうんとハードルを下げるような企画を開催して、子ども連れも大歓迎でむしろそこをメインターゲットにするようなことをして、印刷物もすごくポップに、明快で分かりやすいものにするなど、素人考えですがそういった方法もあるかなと感じました。</p>
委員	<p>「戦後彫刻展」は、行ったという知人からすすめてもらって、これは行かなければということで足を運んだら、これだけのものを一気に見ることができて感動しました。また「青森／徳島」展も拝見して、すばらしかったです。</p> <p>職場に ALT でアメリカから来た方がいまして、その人を誘って秋岡美帆さんの作品のイベントに参加しました。その時に、一緒に参加した人の中に「美術はあまり分からないけれど何となく興味があって」という感じの人が何人かいて、まさにそういった層の人達を今後もっと取り込むことが大切だ</p>

	<p>と感じました。</p> <p>また、そのイベントのあとに「青森／徳島」展をアメリカの方と見ていたら、その人は日常会話はできるけど、キャプションや解説は読めなくて、私も頑張って説明しようとしたのですが、例えば棟方志功の「十二使徒」の「使徒」の説明ができなかったりして、苦戦しました。なのでやはりそういった面での工夫がこれから必要かと思います。</p> <p>それから、近年、鑑賞教育プロジェクトの参加者に小学校の先生が増えていて、そのつながりから出前授業や団体鑑賞の裾野が広がっている感じがあります。今後は、四国大学や鳴門教育大学など、教育学科のある大学の学生さんなど、将来先生になることを目指している層にも、このような活動があることを知ってもらって、一緒に活動していくといいかなと思います。</p>
委員	<p>日本語の文章をスマートフォンにかざすと、自国語に翻訳してくれるというアプリがあるんですよ。</p>
委員	<p>そうですね。でも、展示室内ではスマートフォンを出しづらい雰囲気があって（写真撮影と間違えられ、注意されるため）。</p>
委員	<p>以前の職場で、遠足で来たとき、鑑賞シートを使って学ばせてもらって、学校に戻って子どもたちに感想を聞くと「とても楽しかった」と言ってもらえたことがありました。</p> <p>この美術館は地域に開かれているものであるという意味でとても貴重な場所だと感じます。これからも努力を続けていってほしいです。</p>